



優秀賞 (総合部門)

タイトル

四重苦(暑・暗・狭・散)から開放の家

タイプ

持家一戸建

講評

沖縄ならではの涼しさを主題に、閉鎖的な家を「痛快」なほど、いっしょに開放している。よしず天井、青い琉球ガラスの採用が効果的であり、内部と同じレベルで結んだ木陰テラスは秀逸。建物は周囲に対しても表情を持っている。

リフォーム前後の写真

リフォーム前



①閉鎖的で暑苦しい外観



②散乱した居間兼長男室



③浴室は物置同然



④荒れ放題の庭先

リフォーム後



④天井が高く開放的なダイニング・キッチン、清涼感ただよ「よしず天井」とブルーの琉球ガラススリット

右全部 リフォーム後



⑤木陰テラスは外部リビングとして活用



⑥ヴォールト天井の光が降り注ぐ



⑦心地よいシンボルツリーの木陰



⑧リビングと木陰テラスは連続的に使用されている



⑨開放的で明るい外観



⑩来客を迎え入れる玄関アプローチ



⑪明るく機能的な洗面脱衣室

リフォームの動機/設計・施工の工夫点/施主の感想 など

《動機》	を住まいに呼び込み冷房機器に頼らない開放的で快適な暮らしに変貌。暑い暗い狭い収納庫がなく家中散らかり放題、簡易な襖の間仕切りはブライバシーがなく問題山積の暮らしは限界状態。築20年間で3回、今度こそと思ったリフォームは全て失敗。抜本的な解決のない施主の思いつきのリフォームが原因であった。
《工夫点》	コンクリート躯体のみ残し全ての間取りを変更した。荒れ放題の庭は新築時に植えた木をシンボルツリーとして活用し木陰テラスとした。リビング・ダイニング・キッチンはワンルームとし木陰テラスにつなげた。結果、涼風・光特に配慮した住宅性能：屋根・外壁面の白色系の断熱防水塗装により沖縄の強烈な直射熱を低減、省エネの住まいになった。
《感想》	施主独りよがりのリフォームを悔いています。知恵と工夫満載の住まいに大満足です。設計者・施工者に感謝しています。

所在地	沖縄県中頭郡西原町	構造/築後年数	鉄筋コンクリート造/20年		
該当工事面積	118 m ² /総工事床面積	118 m ²	該当部分工事費	2,300 万円/総工事費	2,300 万円
居住者構成	15歳以上65歳未満: 4人/65歳以上:	人/15歳未満:	人/ペット:		
設計者	建築アトリエTreppen	担当者	照屋 寛公		
施工者	(有)仲村建設	担当者	仲村 清雄		

リフォーム前 | リフォーム後

